

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(11月6日～11月12日)

2023年11月15日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●アレクシク外務大臣のトルコ訪問(11月7日、8日)

●ヴォリフォヴィチ安全保障会議国家書記のロシア訪問(11月8日)

●アハディ・イラン軍統合参謀本部防衛・外交部長率いるイラン軍代表団のベラルーシ訪問(11月9日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●マレロ・キューバ首相との会談

・ルカシェンコ大統領は、ベラルーシ・キューバ間の貿易高が1,000万ドル強にすぎないのは問題であるとして、貿易・経済関係を深化させ、政治的・人道的関係のレベルにまで引き上げる必要性を強調。

(11月10日 大統領府)

●ポーランド独立記念日に寄せた祝電

・我々は、歴史的な出来事に注意を払い、パートナーシップと信頼の原則に基づいて関係を強化することによってのみ、未来を築くことができる。

・今日のポーランドの安全保障の最良の保証は、友好的な隣国関係であり、国の不当な軍事化と軍拡競争の停止であると確信している。共に一步一步前進することでは、我々の地域における対立の克服に貢献することはできない。ベラルーシ側はその用意がある。

(11月11日 大統領府)

【外交】

●アレクシク外務大臣のトルコ訪問

・アレクシク外務大臣は、フィダン・トルコ外務大臣と会談し、第11回経済協力に関するベラルーシ・トルコ政府間合同委員会会合に出席。

・両国外相会談において、アレクシク外務大臣は、EUと米国がベラルーシ産カリ肥料の輸出と通過に対して課している不法な制裁の犯罪的性質を強調。ウクライナでの紛争が始まった当初から、ベラルーシとトルコが一刻も早い停戦を呼びかけ、それを主張してきたことにも言及。さらに、パレスチナ・イスラエル情勢の激化に対する懸念を表明し、いかなる紛争も政治的・外

交的な方法で解決されるべきであると強調。

(11月7日、8日 外務省)

●ヴォリフォヴィチ安全保障会議国家書記のロシア訪問

(1)第11回独立国家共同体(CIS)加盟国安全保障会議書記会合に出席。

ヴォリフォヴィチ安全保障会議国家書記は、以下につき注意喚起。

・集团的西側諸国からCIS諸国に対して実施されている、ハイブリッド戦争やカラー革命の手法による間接的な行動戦略

・ベラルーシ・露連合国家西部国境におけるNATOの兵力拡大

・ウクライナや沿ドニエストルで現在発生していることや、タジキスタン・キルギスタン国境における紛争の発生、及びCIS周辺の状況に対する過激主義・テロの脅威の影響・対露・対ベラルーシ制裁に伴う、西側諸国からCIS諸国に対する経済面での圧力

(2)パトルシェフ露安全保障会議国家書記との二国間会談

・2024年から2025年にかけてのベラルーシ・露両国の安全保障会議諸機構の間の協力進展にかかる行事の計画を確定。

・両国間の相互安全保障に関する条約及びベラルーシ・露連合国家の安全保障のコンセプトの準備状況も協議。両文書とも調整はほぼ終了。

(3)ヴォリフォヴィチ安全保障会議国家書記の発言

・ベラルーシからポーランド・バルト諸国に対する建設的な対話を通じた移民問題を含む問題解決の働きかけには一切反応がない。

・ウクライナだけではなく、中東における紛争についても状況を注視。イスラエルとパレスチナの間の実質的な戦争は、ベラルーシ人に心痛を呼び起こしている。ベラルーシは常に、あらゆる紛争の平和的な解決を呼びかけてきたし、現在も呼びかけている。

(11月8日 国営ベルタ通信)

●ドイツはベラルーシ人に対し、外国人用渡航文書を条件付きで発給

・11月9日、ドイツ内務省は、ドイツに合法的に居住しているベラルーシ人が政治的な迫害が原因で旅券を更新するために本国に帰国できない場合、ドイツにおいて外国人用渡航文書を請求することができる旨発表。

・同渡航文書の申請にあたり、当該ベラルーシ人が旅券を更新するためにベラルーシに帰国することが危険であるという「特別な事情」を裏付ける説明や証明が必要となる。ドイツの移民関連当局は、個々の事情を踏まえて旅券を代替する同渡航文書の発給可否を決定することになる。

・同渡航文書により、制限付きながらも、シェンゲン圏内と特定の第三国に渡航可。

・またドイツ政府は、ドイツ在留ベラルーシ人が居住許可を延長するにあたり、有効期限の切れたベラルーシの旅券も認める旨決定。

(11月10日 ドイツ国際公共放送「ドイチェ・ヴェレ」)

●ポーランドとの関係性に関するアレクシス外務大臣の発言

・ポーランドとの関係を悪化させたのは我々ではない。我々は常に対話を提唱してきたし、これからも提唱し続ける。この対話は専ら相互尊重に基づいた性質のものであるべきであり、いかなる前提条件もなしに行われるべき。

・我々はポーランドの新政権の樹立を待っている。そして、新政権が我々の関係をどのようなものにしていくのかを見守っていく。

・欧州の政治家たちが、自分たちの東方における政策が政治的・道徳的な失敗であることを理解し、良識が打ち勝った時、我々は正常で文明的な対話と正常な

レベルの二国間関係に戻るだろう。

(11月12日 国営ベルタ通信)

【内政】

●作家フィリペンコ氏の父親の拘束

・フィリペンコ氏は、欧州でベラルーシ当局に対する抗議活動を行う作家・ジャーナリスト。

・フィリペンコ氏の父親は、独立系メディア「ゼルカロ（鏡）」の記事を引用した罪で家宅捜索を受け、13日間拘束された。

(11月10日 Pozirk)

●医師に対する弾圧

・人権団体「ヴァスナ」によれば、2020年以来、数百人のベラルーシの医師が当局による弾圧の被害にあっている。

・現在、少なくとも35人の医師が政治的動機により有罪判決を受けており、15人が服役中。

(11月11日 人権団体「ヴァスナ(春)」、12日 Pozirk)

●11月12日現在の政治犯の数は1,456人

(11月12日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●ベラヴィア航空の特別便(テルアビブ発ミンスク行き)で、イスラエル在住ベラルーシ人117人が帰国

(11月6日 国営ベルタ通信)

●アハディ・イラン軍統合参謀本部防衛・外交部長率いるイラン軍代表団のベラルーシ訪問

・ベラルーシ・イラン両国防省間軍事協力合同委員会の第1回会合を開催。

・同会合では、軍事分野における両国の協力進展の現状と見通しが協議され、2024年における共同行事の計画の調整が行われた。

・イラン軍代表団は、今次訪問の一環として、ベラルーシ軍事アカデミーを訪問。

(11月9日 国防省)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(11月6日～11月12日)

- ・リトアニア国境警備局は少なくとも131人を阻止。
- ・ラトビア国境警備隊は少なくとも319人を阻止。
- ・ポーランド国境警備隊は少なくとも539人を阻止。

(11月7日～11月13日 Pozirk)

担当報道官、シモニーテ・リトアニア首相、チェコ、ラトビア、ノルウェー、スウェーデン、ベルギー、スロベニア各国の外務省等は、政治犯や自由で独立したベラルーシのために戦う人々との連帯を表明。

(11月10日～13日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

(了)

【経済】

●2023年のベラルーシ産カリ肥料の輸出量に関する予測

・カナダの鉱物性肥料大手企業「Nutrien」社は、国営「ベラルーシ・カリ」の2023年の輸出量は2021年と比較し約400万トン減少すると予測。

・一方、米国の鉱物性肥料大手「Mosaic」社は、300万～400万トン減少すると予測。ただし、物流の制約と地政学的状況により、他の生産者が不足分を補うには限界があるとして、2024年には若干増加する可能性があると予測。

(11月8日「ゼルカロ(鏡)」)

●ラトビアは欧州委員会に対し、ベラルーシ及びロシアからの犬や猫の商業用輸入を制限するよう要求

・予防接種の証明書等に不足があるケースが多く、狂犬病を蔓延させる可能性があるためと指摘。

(11月8日「ゼルカロ(鏡)」)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

(1)リパフスキー・チェコ外務大臣と会談(於:ビリニュス、11月10日)

・チェコ共和国の査証制限に関する法律からベラルーシ人を例外とするよう求めた。

(2)第1回ベラルーシ・エストニア会議を開催(於:タリン、11月10日)

(3)スペイン社会労働者党が主催する「PES会議2023」に出席(於:スペイン、マラガ、11月11日)

・ショルツ・ドイツ首相と会談。

(4)国際ベラルーシ連帯の日(11月12日)

・ボレル EU 外務・安全保障政策上級代表、NATO 加盟国会議員会議、スタノ・EU 外交・安全保障政策